

平成28年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果

調査対象 第5学年児童



調査内容

- ①体格に関する調査…○身長 ○体重
- ②実技に関する調査…○握力 ○上体起こし ○長座体前屈 ○反復横跳び ○20mシャトルラン
○50m走 ○立ち幅跳び ○ソフトボール投げ
- ③質問紙調査…○生活習慣 ○食習慣 ○運動習慣
- ④学校に対する質問紙調査…○体育的行事の実施状況 ○屋外運動場の状況 ○外部指導者の導入状況

調査結果の概観

- ①体格に関する調査
 - ・男子は身長・体重とも全国・全道平均を上回っています。肥満傾向児の割合が全国の平均よりも高く、全道と同じです。高度肥満・中等度肥満、やせの割合が全国・全道平均を上回っています。
 - ・女子は身長・体重とも全国・全道平均を下回っています。肥満傾向児の割合が全国・全道の平均よりも低くなっています。高度肥満・中程度肥満がおらず、高度やせがいます。
- ②実技に関する調査
 - ・男子は体力合計点で全国・全道平均を下回っています。
 - ・男子は「握力」「ソフトボール投げ」が全国・全道平均を上回っており、筋力や巧緻性、投球能力について高い結果となっています。
 - ・女子は体力合計点で全国・全道平均を上回っています
 - ・女子は「握力」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」で全国・全道平均を上回っており、筋力や筋パワー、跳躍能力、巧緻性、投球能力について高い結果となっています。
 - ・男女ともに「長座体前屈」が全国・全道平均を大きく下回っており、柔軟性に課題があります。
- ③質問紙調査の概要
 - ・男女ともに運動に対する意識が高く、1週間の総運動時間が全国・全道平均より高くなっています。
 - ・男子は「体力に自信がある」と考えている児童が全国・全道平均よりも低くなっています。
 - ・女子は「体力に自信がある」と考えている児童が全国・全道平均よりも高くなっています。
 - ・男女ともに「朝食を毎日食べる」と答えている児童が全国・全道平均よりも低くなっていますが、「食べない」という児童はいません。

今後に向けて

- 柔軟性に大きな課題が見られます。ストレッチなどで柔軟性を高める必要があります。また、規則正しい生活の推進や食事、睡眠などの生活習慣の改善を図るために、学校と家庭・地域が一体となって取り組みを進める必要があります。

